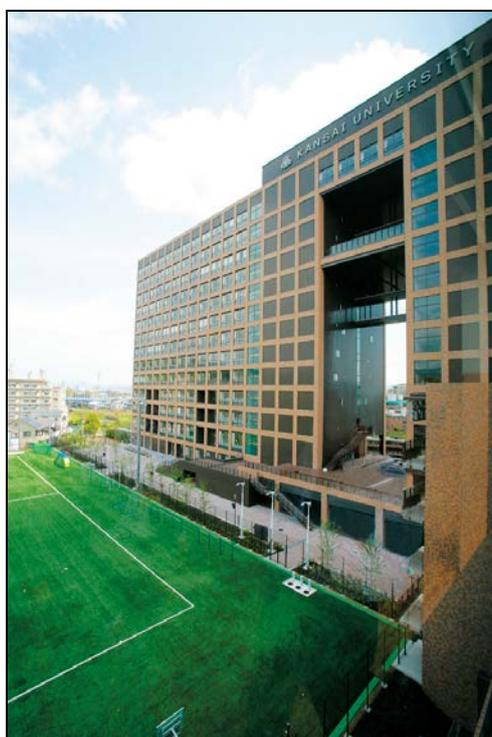


関西大学高等部・中等部 2019年度学校評価報告書



2020年3月

目 次

1	本校の概要	1
2	今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	1
3	アンケートの実施状況.....	8
4	アンケート結果の分析.....	9
5	学校関係者評価委員会からの評価結果.....	10
6	校長の意見書	12
7	アンケート結果	12

1 本校の概要

(1) 沿革

2010年4月

高槻ミュージックキャンパスに関西大学の3つめの併設校として開校。関西大学の学是である「学の実化」(学理と実際の調和)の理念に基づき、初等部・中等部・高等部の12年一貫教育を実践。

2014年～2018年

高等部では「持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの創生」を掲げ、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)として採択される。

2018年1月開催の「SGH甲子園2018」において、ラウンドテーブルディスカッションの部で優秀賞を受賞。その実践をさらに深化させ、国連の提唱するSDGsの活動にも参加。

中等部では、「考える科」「総合的な学習」による思考力の育成を特徴としている。

2019年

開校10周年を迎える。

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

初等教育から高等教育までの一貫教育を同一キャンパスで実践することのメリットを最大限に活用し、個人の成長段階を継続的に把握しながら、「確かな学力」、「国際理解力」、「情感豊かな心」、「健やかな体」を発達段階に応じてバランスよく高めることにより、人間力の基礎となる部分を養い、高い倫理観と品格を有した「高い人間力」を持つ人材を育成する。また、課題発見・問題解決を促す体験型の授業により、自ら考え、自ら行動しながら、学んだ知識を実際に応用することで知恵へと昇華することができる能力を養う。これにより、多様な価値観を尊重しながら、共生の道を模索することができる、ユニバーサル(全世界的、万人に通じる、普遍的)な視野を持つ「たくましく」、「しなやかな」人材を育成する。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：確かな学力の定着と向上、進路希望の実現

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 中等部では、家庭学習の定着と学習の基礎基本の徹底を図る。特に、スローラーナーの学力向上を図る。</p>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>学力向上のためには、予習→授業→復習のサイクルを定着させることが肝要である。また、家庭学習が重要な要素となる。家庭学習の定着については、各教科担当が課題を出し、その提出状況、内容を踏まえ指導している。また、生徒の知的好奇心を喚起するために、ICT機器の活用など、創意工夫</p>

<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査の校内分析会を開催し、具体的な対策を検討。 ・各定期考査及び学力推移調査の成績不振者に対して個別指導等のフォローを行う。 ・学力向上に関して、生徒アンケート設問9の肯定的回答（1・2）が70%以上。 ・スローラーナーへの対応に関して、生徒アンケート設問12の肯定的回答（1・2）が60%以上。 	<p>した授業を展開している。</p> <p>中等部では学力推移調査の学習実態データを毎回学年ごとに集約し、個々の状況に応じ、質問対応などの指導を行った。また、教科担当と連絡を取り合い、指導すべき点の情報共有を行った。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査の結果の分析方法の研修会を開催し、学力向上のために教科担当と学年が連携し、個別に指導した。 ・成績不振者に対して、学年と教科担当者の連携を行い、個別に対応できた。 ・中等部生徒のアンケート結果からは、設問9「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じますか」の設問には、1・2の肯定的回答が一昨年66.4%、昨年が71.5%、本年度が78.9%と上昇しており、目標を達成した。 ・設問12「成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあるように感じていますか。」には、1、2の肯定的回答が76.0%と目標を達成した。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>生徒が自身の学力向上を実感し、より主体的に学びに向かうことができるよう、次年度も授業改善を進めるとともに、生徒の学力実態を把握した上でスローラーナーへのきめ細かい指導も進めたい。また、家庭学習についてもさらに定着できるよう、指導・支援を進めていきたい。</p>
<p>イ 高等部ではキャリア教育の充実を図り、ミスマッチの無い進路実現を目指す。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学学部説明会の積極的な参加を促し、一人あたり2学部以上の参加。 ・大学進学の情報提供に関して、生徒アンケート設問8の肯定的回答（1・2）が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に高等部1・2年生対象法学部連携セミナーを実施した。7月に関西大学各学部訪問を実施した。 ・7月に高等部3年生対象大学入試説明会を実施した。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学学部説明会へは概ね一人あたり2学部以上の参加ができた。 ・大学進学の情報提供に関して、設問8「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」の1・2の肯定的回答は、一昨年76.8%、昨年77.3%、本年度が81.6%と上昇しており、目標を達成した。また、設問22の高大連携事業についても、1・2の肯定的回答が71.8%となった。 ・関西大学への進学者数は2019年度の高等部3年生は初等部接続の初めての学年であり、また、中等部から高等部へ

	<p>進学する際に 108 名中 85 名 (79%) が高等部に進学した。その結果外部募集の数が多くなり、開校以来、初めて 5 クラスになった学年である。学力的にも上下差が大きく、担任をはじめとする学年、教科担当は今までになく指導を強化することが必要になった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】 高等部の学則定員は 144 名であるが、高等部から内部進学する関西大学各学部の総定員数は 128 名となっており、毎年 10 数名が他大学等に進学することになる。内訳としては、難関国立大学等への進学者と、学力低位のために他の大学等への進学が必要な生徒に分かれており、今後、学力低位層の底上げのための指導と、難関国立大学を目指す生徒への指導を両輪で進めることが必要である。</p>
<p>ウ 併設校としての使命である関西大学への進学数を増やす。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査や個人懇談、三者懇談を実施し、生徒の志望状況を把握。 ・関西大学への内部進学希望者 100 名以上。 ・関西大学への内部推薦の合格率 95%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】 高等部 1 年生は 7 月に進路適性検査を実施、1～3 年生を対象に、進路希望調査は 9 月に実施した。それを元に生徒個人面談、7 月・12 月には保護者を交えての三者面談を実施、各学年適宜個別に面談を繰り返し実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を 9 月に実施。三者面談は 7 月、12 月に実施した。加えて、学年ごとに日常的に面談を実施し、生徒の志望状況を把握している。 ・学年団・進路指導部の尽力もあり、結果関西大学への内部進学希望者は目標を超えて 110 名となった。 ・内部推薦の合格率は 100%を達成した。 <p>【今後の改善方策(Action)】 今後は上記の進路希望調査、面談を継続して実施していく。併せて、関西大学進学後には外部から一般入試で入学してくる学生と授業を受けるので、各学部の要求に応えられるように学力向上に努めなくてはならない。</p>

(2) 重点目標②：個性を伸ばす教育の実践とルールの遵守

<p>取組計画及び評価指標(Plan)</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p>
<p>ア 探究学習の深化、充実を図る。</p>	<p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」での外部講師の積極的な活用を行った。今年度開講の全 20 ゼミで外部講師を登用した。 ・高等部 1 年生「プロジェクト基礎」では関西大学研究室訪

<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」での外部講師の積極的な活用。今年度開講の全20ゼミで外部講師を登用。 ・中等部「考える科」「総合的な学習の時間」及び高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」での積極的なフィールドワーク (FW) の実施 (各学年で年1回以上)。 ・探究学習とSDGs活動との連携を深めるため、梅田キャンパスにて、高等部主催の「SDGs フォーラム」を開催。 	<p>間FW、高等部1年が10月にFWを実施した。高等部2年生「プロジェクトゼミ」では5月にFWを実施、又、高等部2年生はハワイへの研修旅行内でもFWを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等部「考える科」「総合的な学習の時間」において、5月に2・3年生がFWを実施、12月に総合学習発表会を開催した。 ・6月にSDGsフォーラムを梅田キャンパスで開催した。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>上記記載通り、中等部「考える科」「総合的な学習の時間」、高等部1年「プロジェクト基礎」、2年「プロジェクトゼミ」では予定通りFWを実施した。生徒は個々の研究課題に向けて明確な目標が持てたようである。</p> <p>「SDGsフォーラム」を開催することで、企業の方から生の話を聴き、ディスカッションすることで社会への関心が高まり、今後の活動へ繋げることができた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>開校以来本校の特色の一つとして位置づけている探究学習であるが、プロジェクト学習における論文作成等の課題も上がってきているので、学習内容や指導方法について検討していきたい。また、新学習指導要領に位置付けられる探究科目の導入も視野に入れながら、2022年度からの段階実施に向け、カリキュラム策定を行っていきたい。</p>
<p>イ ICT機器を活用した先進的教育活動を取り入れる。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向けにICT研究及びICTモラル研修を年1回以上開催。 ・ICT教育推進委員会において、ICT機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討。 ・ICT環境の活用に関して、教員アンケート設問17の肯定的回答(1・2)が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向けにICT研究及びICTモラル研修を7月19日に実施した。 ・ICT教育推進委員会において、ICT機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討し、今後の方向性を確認した。 ・新型コロナウイルス感染拡大による休校期間には、ICT機器を活用し、オンライン学習に取り組んだ。 <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象・教員対象ICT研修は上記の通り実施した。 ・休校期間中に、クラスルームによる課題提示・提出等、生徒との双方向のやり取りや、PCやスマートフォンを使ってセミナーやミーティングをオンライン開催するために開発されたアプリであるZoomを活用したオンライン学習の実践ができた。 ・設問17の結果は、1、2の肯定的回答が84.6%となり、目標を達成した。

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>ICTの活用は本校が開校以来進めてきたものであり、教科の特性、生徒の成長過程等に留意しながら、中等部・高等部いずれの授業においても、必要に応じてiPadやパソコン、電子黒板を活用して授業を行っている。今後も、ICTモラルについては十分に指導を進め、教員研修も実施しながら、生徒がより主体的に学ぶことができるようにしていきたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等部、高等部とも全員参加の海外研修以外の海外交流活動を積極的に展開する。 ・海外交流校の増加に向けた取組を進める。 ・国際理解に関して、生徒アンケート設問21の肯定的回答(1・2)が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等部は、10月にカナダ研修旅行を実施した。 ・高等部は、10月にハワイ研修旅行を実施した。 ・高等部は、7月にシンガポール交換留学生来校、台湾交換留学生が来校した。 ・3月に予定していたシンガポール交換留学については、新型コロナウイルスの影響で、シンガポールからの受け入れができないとの連絡が入った。併せて台湾交換留学も中止にせざるを得なかった。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等部3年生のカナダ研修旅行は天候の影響もあり、バンクーバーからビクトリアに向けてのフェリーが欠航し、行程が変更になった。しかし、生徒が団結し、大過なく終えることが来た。 ・高等部2年生のハワイ研修においては、FWを実施し企業訪問することで、各自の課題に向けて確認ができた。 ・国際理解に関して、設問21の1・2の肯定的回答が中等部91.4%、高等部では85.6%という結果であり、目標を達成した。 ・海外交流校の増加に向けた取組には着手できていない。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>グローバルな社会が今まで以上に広がっていく現在、国際社会との関係は益々濃密になって行かざるを得ない。こちらでも開校以来の本校の教育の柱となっている国際理解教育の充実を図るために、現行の海外研修に加え、新たな交流先の発掘、姉妹校の提携等新たな展開を考えていきたい。</p>
<p>エ 基本的な生活習慣を確立させる。特に、時間厳守と挨拶の励行に力を注ぐ。</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、様々な観点から、中等部・高等部ともに朝礼、終礼を廃止した。中等部の10分間読書・高等部のモジュール学習等、メリットもあったが、8時30分には授業が

<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの遅刻数を把握し、多回数 の生徒に対して個別指導。 ・基本的な生活習慣に関して、生徒 アンケート設問 19 の肯定的回 答（1・2）が 70%以上。 	<p>スタートすることを生徒自身が自覚し、学習に集中できる よう指導を進めてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝は授業担当者が出席をとり、端末に入力する形をとって いる。終礼においては各学年、担任が任意で実施している クラスもある。 ・挨拶においては全校集会でほぼ毎回訴えかけ、「校門で挨拶 （例—ポケットに手を入れて挨拶しない）」等の指導を 行った。また、廊下の掲示等で挨拶、時間厳守の啓蒙活動 を行った。
	<p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任・人権教育主任の兼務という状況の中で、兼 務主任の尽力、各学年の生徒指導係の教員の尽力により、 月ごとの遅刻数を集計し、生徒指導部会で共有し指導に当 たった。 ・アンケート設問 19 の結果は、1・2 の肯定的回答が中等 部は 89.2%、高等部は 77%という結果であり、基本的な 生活習慣が概ね身についていると思われる。
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今後は遅刻、早退等の出席状況等を職員会議等全教員で共 有することが必要である。そこから全教員が共通認識を持つ て生徒の指導に当たるようにしていきたい。</p>

(3) 重点目標③：教職員のさらなる資質向上及び業務の相互協力の推進

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 授業力の向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 2 回以上の校内研究授業を 実施。 ・本校で 11 月開催の全国附属校 サミットを通じて、授業力向上 の取組を推進。 ・週 1 回以上の校長による校内 見回り、授業参観の実施。 	<p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 月・11 月に教員間の校内参観授業を実施した。 ・11 月に全国私立大学附属・併設 中学校・高等学校 教育 研究集会を本校が幹事校となり実施した。 ・校長の授業参観（巡視）を実施した。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国私立大学附属・併設 中学校・高等学校 教育研究集会 では、開催に向け担当者が綿密に計画を練り、会の成功に つなげることができた。 ・2 日間の日程の中で、14 本の公開・研究授業や生徒発表を 実施し、各授業者が熱心に授業研究や指導にあたることが できた。また、協議会・分科会においても活発な論議がな された。 ・各教科の公開授業週間は設けたが、全体の研究授業につい ては実施することができなかった。

	<p>・校長の授業の見回り、授業参観の実施は、ほぼ毎日実施した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】 生徒の学力養成には授業の工夫が必須である。知的好奇心を喚起することが求められる。そのために生徒の意欲関心を引き出し、自主的に学ぶことができるように、教員の授業力の向上ができるような機会を作っていきたい。</p>
<p>イ 教員研修の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修を年1回以上実施。 ・人権研修を年1回以上実施。 ・研修体制に関して、教員アンケート設問31の肯定的回答(1・2)が60%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修を職員会議前などにICT委員会主催で実施した。 ・生徒の人権意識と実践力向上のために、人権教育部会が中心となって生徒の実態にあった内容を検討し、講師招聘等にあたり研修会を実施することができた。 ・教員対象人権研修会は7月・11月に実施した。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修については、短い時間であってもその後の授業等でICTを活用するための有効な場となった。 ・人権教育講演会では、生徒一人ひとりが熱心に講演を聞くことができ、人権意識の向上につながったのではないかと考える。 ・教員アンケートの設問31の1・2の肯定的回答が、63.2%と目標を達成した。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>目標値は達成したが、教員の研修については今後も機会を作っていきたい。</p>
<p>ウ 業務のマニュアル化、改善を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアル化の方策を校務運営委員会にて検討。 ・教科、校務分掌毎のマニュアル化の推進。 ・超過勤務時間の削減(2018年度から全体で5%減)。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の連携・引き継ぎをスムーズに行うように、PC上に各学年・各部署のデータホルダに業務を記録し、教職員の誰もが閲覧できるようになっている。 ・マニュアル化・ルーティン化することによって業務の効率化を図るようにしている。 <p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方については、10月以降学年・分掌からの意見を聞き取り、内容を整理し改善に取り組んだ。マニュアル化は各学年・分掌ごとにまとめている。 ・超過勤務時間については2019年度と2018年度は集計条件等の差異があり、一概には比較検討はできなかった。

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方と生徒への教育効果のバランスを求められる時代になっている。教育活動の質を高めるためにも、教員の働き方改革は喫緊の課題であると考えている。今後、学年・分掌の業務について更なるマニュアル化を推進し、電子化できる分野についても推進していき、効率のよい業務遂行を目指していきたい。
<p>エ ミドルリーダー（各主任）の育成と裁量拡大の推進及び教員間の協力体制の構築。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの育成と裁量拡大について、校務運営委員会等を活用し、具体的方策を検討する。 ・教員間の協力体制に関して、教員アンケート設問5の肯定的回答（1・2）が60%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーは学校の核となるべき存在であり、学校経営方針にもその旨を盛り込み各学年・分掌の主任に位置付けている。 ・各主任は、見通しを持ち業務を遂行、各学年・分掌の意見集約・助言などを行い、学校運営を進めてもらった。 <p>【達成状況(Check)】（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダー育成のための研修の場を持ったり、校務運営委員会において主任の裁量権拡大等について検討したりすることができなかった。 ・教員間の協力体制に関して、教員アンケート設問5の肯定的回答（1・2）は、46.2%（昨年52.5%）と低く、目標を下回った。35.9%（昨年35%）が「3.どちらかというとそう思わない」と回答しており、業務改善につながる教員間の協力体制を構築することが必要である。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>ミドルリーダー（それぞれの学年・分掌）の裁量拡大を進めたい。本校のような小規模校としては、小回りがきき、スピード感を持った学校運営が理想であり、そのためにできることから改善を行っていきたい。そのためにはミドルリーダーの研修も必要である。</p>

3 アンケートの実施状況

今までは担任が生徒用・保護者用アンケート質問用紙及びマークシート用紙を配布し、回収後のマークシートの読み取り集計等の作業を行っていたため、業務が煩雑であった。しかし本年度は、ダークアンケートを使用し、配布、回収作業がなくなり、集計も容易になった。全体的には業務の簡便化を図ることができた。

(1) 生徒の評価

11月上旬に中等部・高等部ともに「学校生活全般」に関するアンケートに学校評価共通項目を盛り込んで実施した。回答率は86.0%であった。

(2) 保護者の評価

11月上旬に中高等部の全保護者を対象に実施した。回答率は75.8%であった。

(3) 教員の評価

11月上旬に中高等部の教員を対象に実施した。回答率は75.0%であった。

4 アンケート結果の分析

以下、(1)「そう思う」…1、(2)「どちらかと言えばそう思う」…2、(3)「どちらかと言えばそう思わない」…3、(4)「そう思わない」…4と表記する。

(1) 生徒アンケートについて

生徒アンケートの結果は、まず「学校生活に対して楽しいと感じているか」の1・2の肯定的回答が中等部・高等部ともに概ね80%を超えている。生徒が本校に入学し、学校生活を有意義に過ごしていると言ったことが見て取れる。これは我々教職員にとっては有り難い結果であると思う。

次に学習に関する項目9・11・12・13についても、1・2の肯定的回答が概ね70%を超えており、本校の生徒の学習に対する指導、取組が一定の成果があるとみてよいであろう。しかしながら、「成績が低迷した場合に補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じているか」の設問12に関しては、1・2の肯定的回答が中等部生の76%に比べて、高等部生の割合が61.3%と低い。次年度から、新たな補習授業の取組を導入することで解消の一助になればと考えている。

規範意識を問う設問15に関しては、中等部、高等部ともに概ね70%を超えており、本校生徒の一定規範意識は身につけているのではないかと。設問23の悩みの相談の体制ができていないについては高等部生徒の4割近く(38.9%)が、否定的回答3・4と回答しているので、更なる充実を図りたい。

(2) 保護者アンケートについて

保護者のアンケートでも、「本校に入学させてよかった」の設問には中等部・高等部とも肯定的回答1・2が80%を超えているという結果であり、喜ばしい結果である。学力に関する設問についても、肯定的回答が概ね70%を超えており、一定の評価は頂いているようである。ただ、スローラーナーへの対応に関する設問14に関しては、生徒アンケート結果と同様に低い評価であり、上記同様、次年度からの新たな取組で解消の一助にできればと考える。設問25の初等部との連携についても、中等部・高等部ともに低い結果であり、今後の更なる連携を構築していかなければならないと考える。

(3) 教員アンケートについて

教員アンケート結果は、設問4の「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている」に関しては3(どちらかと言えばそう思わない)が43.6%と最も高かった。会議を効率的、機能的に運用するために教員間のコミュニケーションが欠かせないと考える。

設問5の「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと、教育活動を行っている」では2(どちらかと言えばそう思う)が38.5%(昨年50.0%)、3(どちらかと言えばそう思わ

ない) が 35.9% (昨年 35.0%) とほぼ同数であった。設問 6 の「管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。」の肯定的回答 1・2 の合計が 61.5% (昨年 42.5%)、否定的回答 3・4 の合計が 38.4% (昨年 57.5%) と改善が見られた。

設問 13 の「学力向上のための組織的な取組を行っている」や 14・15・18 の設問には 3 (どちらかと言えばそう思わない) の回答率が高く、教員の組織的取組を行うための方策を考えねばならない。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①「確かな学力の定着と向上、進路希望の実現」について

- ・ 初等部から中等部への内部進学者が 60 名中、例年 50 名前後ということであるが、併設校として上の学校に進学してもらうということはひとつの使命であると考えている。様々な理由があつて他校に進学するとは思いますが、中等部に進学することのメリットや魅力を初等部生に伝えることが必要ではないか。
- ・ 中高等部の教育後援会としても、初等部の教育後援会と連携し、初等部の保護者に対して、積極的に情報提供を行っていきたいと考えている。
- ・ 個人的には教育の根幹は国語であると考えている。グローバル化も大切であるが、国内に目を向けることも重要であり、先生方には生徒に対して、外国人に対して日本のことを正確に説明できる国語力を身に付けさせるような教育に取り組んでもらいたい。
- ・ 今年度、プロジェクト基礎で高等部 1 年生を指導したが、やはり基礎学力が大切であると実感している。併設校の生徒は、卒業見込み入試があるものの、一般の大学入試に臨む生徒と比較すると学習量等には差があることも考えられるため、特に基礎学力の習得に力を入れてもらいたい。
- ・ 基礎学力の定着のためにも、本を読む癖を生徒に身に付けて欲しい。休校中や春休みの課題として、読書を指示してはどうか。例えば、2 冊の本を比較検討させることにより、様々なものの見方を身に付けることができる。

イ 重点目標②「個性を伸ばす教育の実践とルールの遵守」について

- ・ 関西大学への内部進学に関して、併設校からの生徒を受け入れているゼミや研究室の担当教員から、どのような学生を求めているのかについて、意見を聞く機会を持つてはどうか。3 併設校の卒業生でそれぞれの特色など何らかの違いがでるのではないか。
- ・ 大学の教員からの情報により、学部が求める基礎学力がどのようなものか理解でき、その結果として、高等部のプロジェクト科目や探求学習の取り組み方、在り方も変わってくるかもしれない。
- ・ プロジェクト科目では、大学や一般企業などから多数の外部講師が登用されており、生徒は授業の中で様々な刺激を受けている。そのような取組が、他の科目にも繋がっていけばよいと考えている。
- ・ 新型コロナウイルスに関して、社会安全学部の公衆衛生を専門とする教員に、中高等部の生徒を対象として授業を依頼してはどうか。科学的リテラシーに基づく正しい知識を持つ

ていることが大切であり、様々な課題や問題を多面的に読み解く力を身に付けることができる。

- ・国際理解教育の充実に関して、海外交流校の数よりも、交流の実質化を目指して欲しい。
- ・一貫校のメリットを活かして、生徒には短期留学を含む海外留学に積極的にチャレンジして欲しい。学校としても、海外留学を評価するようなサポート体制を考えてはどうか。

ウ 重点目標③「教職員のさらなる資質向上及び業務の相互協力の推進」について

- ・教員研修に関して、物理と数学、英語と国語など関連する科目の担当教員がそれぞれの授業内容を相互に理解しながら、授業を進めることで教育効果も上がるのではないかと。
- ・新型コロナウイルス対応では、先生方から保護者に対して適切に情報を提供いただき、保護者として大変助かっている。
- ・教員と保護者が対話をする機会を持つことが重要であり、保護者は情報が入ってこない不安になる。まず、教員と保護者がいい意味で顔見知りになるようなきっかけを作りたい。
- ・初等部と中高等部の教員間の交流の機会を積極的に進めて欲しい。その結果として、中高連携も進んでいくと考える。

(2) アンケート結果について

- ・教員アンケートの結果分析で、教員間のコミュニケーションの必要性について述べられていたが、生徒にとって魅力的な授業とはどのようなものか、どのような授業を行えば生徒の学力が向上するのかなどを教員間で継続的に話し合う機会を持って欲しい。
- ・教員アンケートにおいて、初等部と中高等部との連携に関する評価が非常に低いと、今後の取組として、本年4月に関西大学に入学する初等部1期生から、学部での授業や生活について話しを聞く機会を設けて、その内容を大学にフィードバックすることによって、初等部・中等部・高等部と大学が子どもを通じて交流できるのではないかと考える。その結果、初等部・中等部・高等部の連携も深まり、将来的に教育の改革にも繋がっていくのではないかと。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
吉川 明	高槻市中学校校長会 会長
秋山 典子	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
小澤 守	関西大学社会安全学部 教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
井尻 誠	関西大学中等部・高等部 校長

6 校長の意見書

関西大学中等部・高等部
校長 井 尻 誠

開校から早 10 年がたち、様々な課題を有しながらも中等部高等部は次の 10 年に向かって歩み出した。

アンケート結果を見る限りは、中等部・高等部ともに、生徒は学校生活を十分に楽しんでいると思われる。この結果は我々教職員にとっては大変喜ばしいことである。また、保護者からも同等の評価を頂いている。これは、本校の教育方針に則り、本校独自の教育活動を実践してきた成果ではないだろうか。

しかしながら、肯定的な部分だけではなく、今後は評価の低い部分にも目を向け、検討を重ね、改善していかなければならないと考える。

アンケート結果とは離れるが、私学を取り巻く状況は年々厳しさを増してきている。国の施策の大学入学定員の厳格化による一般入試受験者数の大幅な減少、国や大阪府の高校授業料無償化制度導入等、私学を取り巻く財政的課題は多寡を極める。そんな中、併設校である本校の定員を確保することは私学経営の必須条件であることは言うまでもない。少子化の中で本校の教育に関心を寄せる知的好奇心の高い生徒をいかに多く集めるか、そして関西大学に優秀な生徒を送り出せるかが大きな課題である。関西大学の併設校として、時代を見据え、更なる発展を遂げるように様々な課題を克服し、大阪で「一番入学したい学校」にするために教職員一同力を合わせて進んでいかなければならない。

7 アンケート結果

2019 年度 学校評価アンケート集計（生徒用／保護者用／教員用）

以 上

2019年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート集計（生徒用）

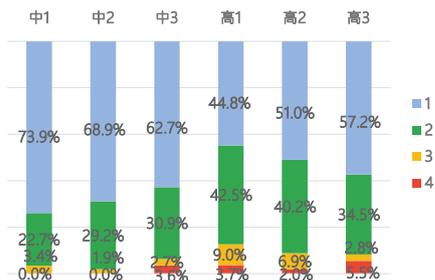
[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	中等部全体				高等部全体			
		[1]	[2]	[3]	[4]	[1]	[2]	[3]	[4]
1	学校生活は楽しいと感じていますか。	68.1%	28.0%	2.6%	1.3%	51.2%	38.8%	6.0%	3.9%
2	この学校に入学して良かったと思いますか。	61.3%	28.9%	5.6%	4.3%	30.9%	46.4%	13.2%	9.5%
3	本校の教育方針を理解していますか。	33.0%	50.8%	11.2%	5.0%	26.2%	49.6%	15.7%	8.4%
4	登下校時を中心に、関大中高等部生としての自覚をもって行動していますか。	44.7%	47.7%	5.9%	1.6%	39.9%	45.9%	10.0%	4.2%
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。	40.5%	41.1%	12.8%	5.6%	27.6%	38.1%	24.1%	10.2%
6	先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。	35.0%	40.9%	14.9%	9.2%	19.6%	42.1%	26.7%	11.5%
7	「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。	43.7%	46.0%	8.3%	2.0%	34.2%	50.1%	10.3%	5.3%
8	関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか。	29.6%	43.1%	20.7%	6.6%	38.8%	42.8%	12.1%	6.3%
9	授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。	36.5%	42.4%	17.1%	3.9%	23.1%	49.1%	16.5%	11.3%
10	将来やりたいことが見つき、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。	24.7%	30.3%	29.6%	15.5%	30.5%	38.2%	20.3%	11.1%
11	模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。	25.7%	55.9%	12.5%	5.9%	24.9%	50.5%	15.4%	9.2%
12	成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをもらえる仕組みがあると感じていますか。	34.9%	41.1%	17.8%	6.3%	16.5%	44.8%	24.1%	14.7%
13	課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。	36.6%	46.5%	12.9%	4.0%	30.6%	43.5%	15.4%	10.5%
14	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	57.0%	31.1%	8.3%	3.6%	39.7%	42.3%	12.0%	6.0%
15	生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	36.8%	48.3%	10.6%	4.3%	27.5%	48.7%	15.2%	8.6%
16	いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。	50.5%	28.7%	12.5%	8.3%	28.5%	38.2%	21.5%	11.8%
17	他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。	40.7%	41.3%	13.0%	5.0%	27.7%	46.9%	17.0%	8.4%
18	先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。	39.3%	40.3%	12.2%	8.3%	22.5%	52.5%	16.7%	8.4%
19	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	41.3%	47.9%	7.9%	3.0%	28.3%	48.7%	14.9%	8.1%
20	各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。	46.9%	45.5%	6.3%	1.3%	41.8%	42.6%	10.7%	5.0%
21	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか。	42.7%	48.7%	6.6%	2.0%	36.9%	48.7%	11.0%	3.4%
22	高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携があると思いますか。	34.2%	49.5%	11.6%	4.7%	29.2%	42.6%	18.5%	9.7%
23	悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	39.1%	41.1%	9.6%	10.3%	19.8%	41.3%	23.5%	15.4%
24	工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。	55.1%	30.0%	8.6%	6.3%	30.3%	39.4%	20.1%	10.2%

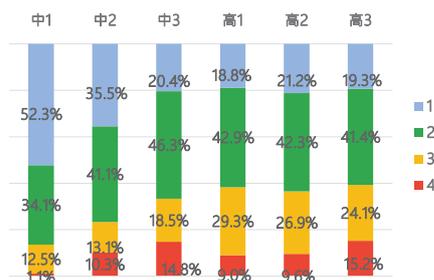
2019年度 生徒アンケート集計（学年別）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

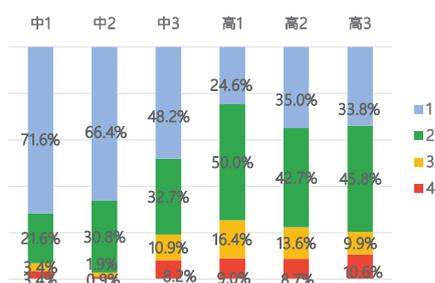
1. 学校生活は楽しいと感じていますか。



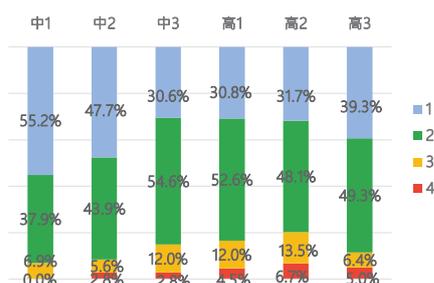
6. 先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。



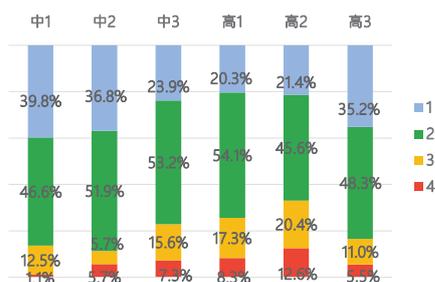
2. この学校に入学して良かったと思いますか。



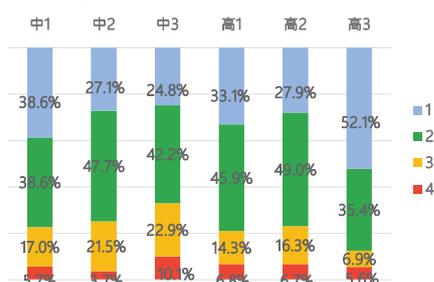
7. 「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。



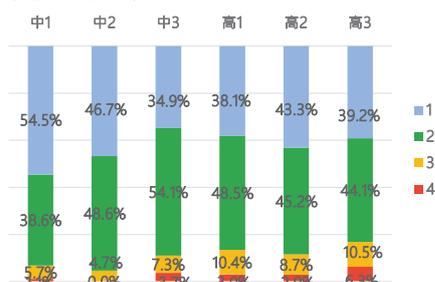
3. 本校の教育方針を理解していますか。



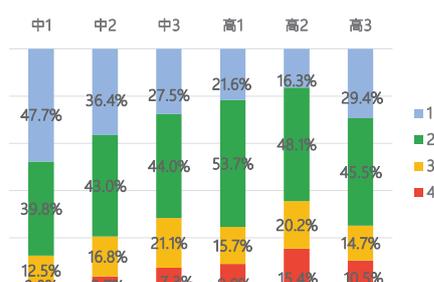
8. 関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学へのモチベーションが上がってきましたか。



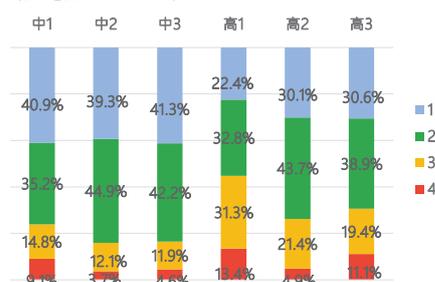
4. 登下校時を中心に、関大中等部生としての自覚をもって行動していますか。



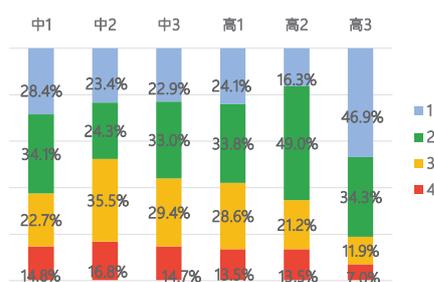
9. 授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。



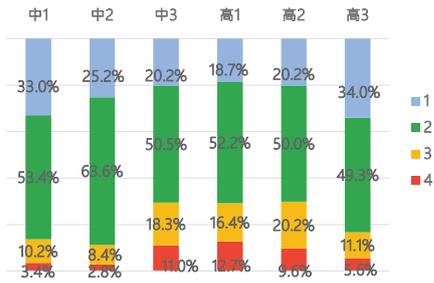
5. 事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。



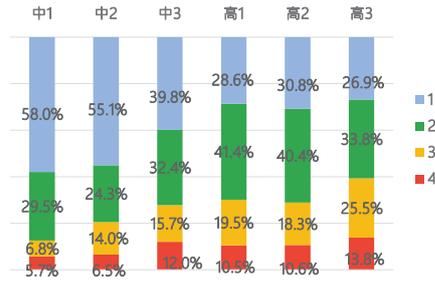
10. 将来やりたいことが見つかると、それに向けて逆算して準備を始めていますか。



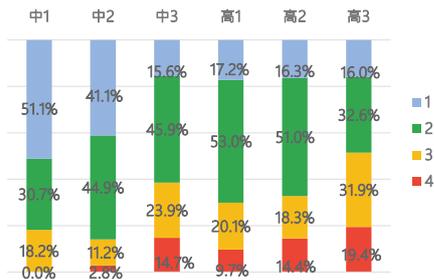
11. 模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。



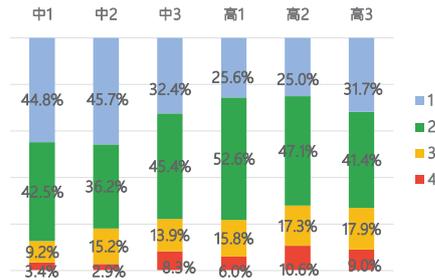
16. いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。



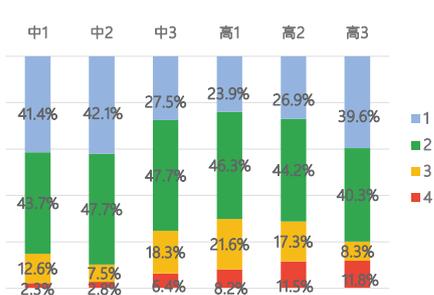
12. 成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。



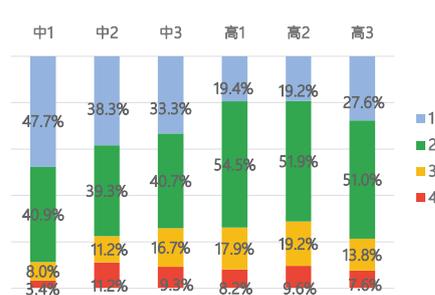
17. 他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。



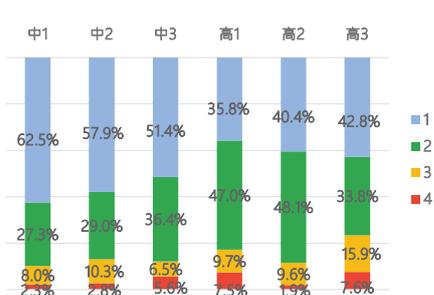
13. 課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。



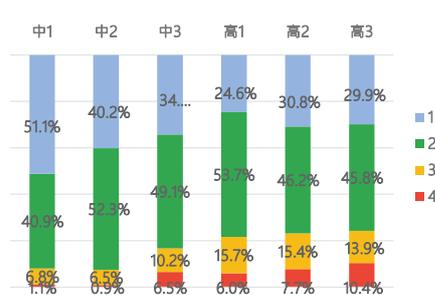
18. 先生とのコミュニケーションが十分にこれ、先生の指導の意図を理解していますか。



14. 自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。



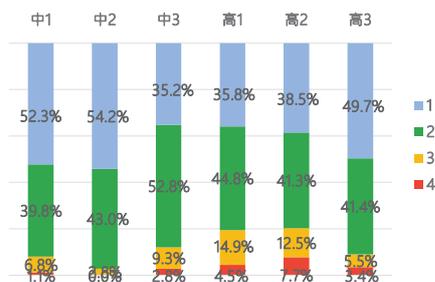
19. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。



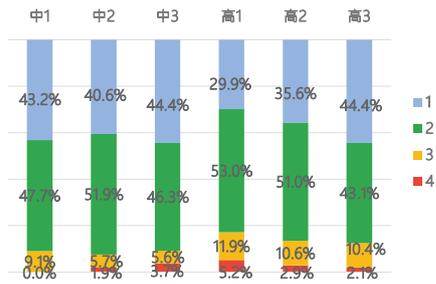
15. 生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。



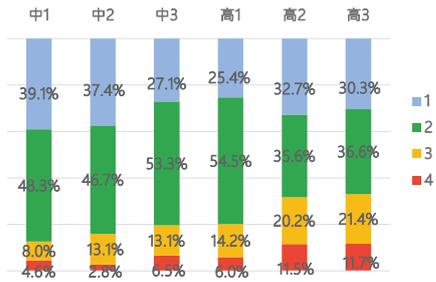
20. 各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。



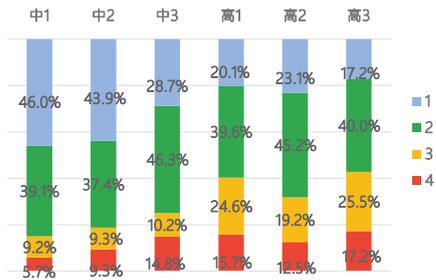
21. 異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか。



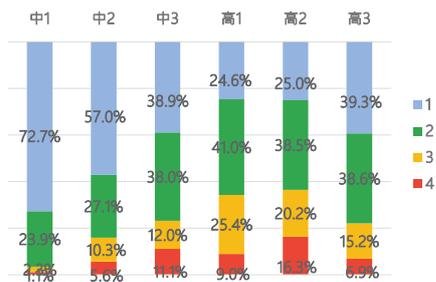
22. 高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携があると思いますか。



23. 悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。



24. 工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。



2019年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート集計（保護者用）

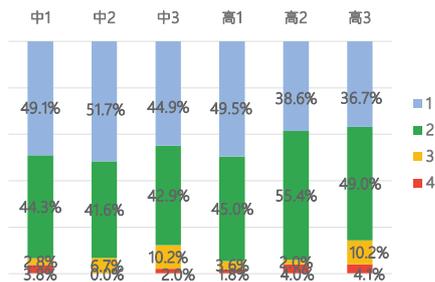
[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	中等部全体				高等部全体			
		[1]	[2]	[3]	[4]	[1]	[2]	[3]	[4]
1	ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思えますか。	48.5%	43.0%	6.5%	2.0%	41.9%	49.7%	5.2%	3.2%
2	保護者として、この学校に入学させて良かったと思えますか。	43.0%	48.1%	7.5%	1.4%	46.5%	42.9%	7.1%	3.5%
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	33.9%	58.6%	7.2%	0.3%	29.1%	59.9%	8.4%	2.6%
4	ウェブや学校からの連絡、学級通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。	18.1%	48.8%	25.6%	7.5%	21.0%	49.4%	22.3%	7.4%
5	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思えますか。	23.0%	56.7%	15.1%	5.2%	23.9%	57.3%	14.6%	4.2%
6	学校は、事故、事件、災害に対する対応が的確な組織になっていると思えますか。	29.5%	51.7%	13.4%	5.5%	25.9%	53.7%	15.2%	5.2%
7	学校は個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思えますか。	41.0%	54.8%	3.1%	1.0%	36.9%	54.4%	5.2%	3.6%
8	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思えますか。	23.0%	60.8%	13.4%	2.7%	20.1%	56.8%	18.2%	4.9%
9	本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思えますか。	16.8%	50.3%	24.7%	8.2%	21.4%	38.5%	27.3%	12.8%
10	お子様が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思えますか。	12.0%	47.4%	29.2%	11.3%	23.7%	45.8%	21.1%	9.4%
11	生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業を行っていると思えますか。	19.9%	54.3%	21.0%	4.8%	21.6%	56.5%	16.7%	5.2%
12	学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思えますか。	28.4%	51.4%	15.8%	4.5%	23.4%	56.8%	14.0%	5.8%
13	学校は教室のディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいると思えますか。	42.5%	47.3%	6.8%	3.4%	42.0%	43.6%	10.4%	3.9%
14	習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思えますか。	10.7%	41.9%	29.8%	17.6%	11.0%	38.0%	34.1%	16.9%
15	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思えますか。	20.9%	48.6%	21.6%	8.9%	21.9%	53.5%	16.1%	8.4%
16	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思えますか。	24.5%	57.2%	12.8%	5.5%	24.7%	55.8%	12.7%	6.8%
17	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思えますか。	26.0%	59.2%	10.7%	4.2%	21.0%	55.3%	15.9%	7.8%
18	お子さまの日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思えますか。	18.6%	51.4%	24.5%	5.5%	20.8%	50.6%	22.1%	6.5%
19	本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思えますか。	18.3%	61.7%	15.2%	4.8%	18.2%	56.8%	18.2%	6.8%
20	本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思えますか。	15.5%	51.5%	25.1%	7.9%	19.4%	46.3%	25.6%	8.7%
21	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思えますか。	14.5%	58.6%	23.1%	3.8%	17.5%	50.8%	25.6%	6.1%
22	各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされていると思えますか。	28.3%	61.4%	9.7%	0.7%	26.6%	59.1%	11.0%	3.2%
23	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思えますか。	34.1%	50.7%	13.1%	2.1%	33.9%	53.5%	10.6%	1.9%
24	高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携が積極的に行われていると思えますか。	18.2%	49.1%	25.1%	7.6%	29.4%	43.2%	20.3%	7.1%
25	初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思えますか。	9.9%	41.4%	30.5%	18.2%	11.0%	44.3%	30.7%	13.9%
26	子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていますか。	19.6%	55.3%	18.6%	6.5%	20.1%	48.2%	24.6%	7.1%
27	本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思えますか。	24.0%	54.8%	14.4%	6.8%	23.9%	49.3%	17.0%	9.8%

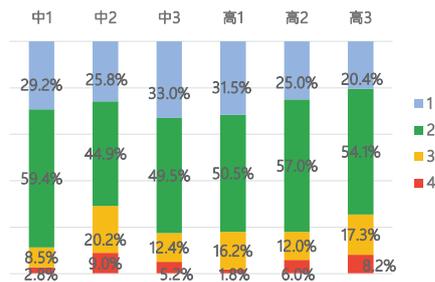
2019年度 保護者アンケート集計（学年別）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

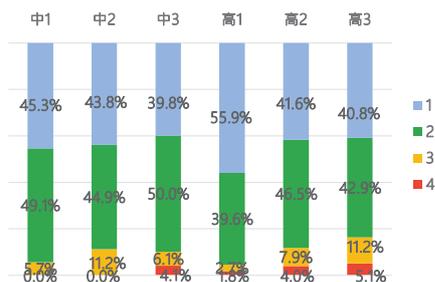
1. 子/女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。



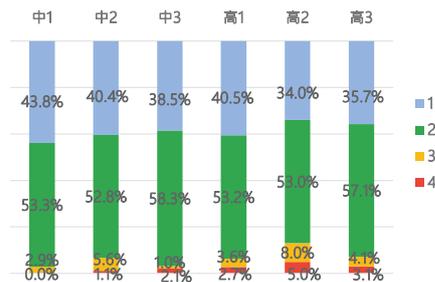
6. 学校は、事故、事件、災害に対する対応が的確な組織になっていると思われませんか。



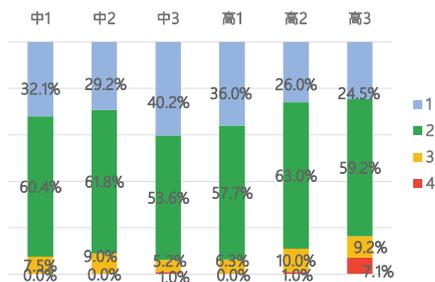
2. 保護者として、この学校に入学させて良かったと思われませんか。



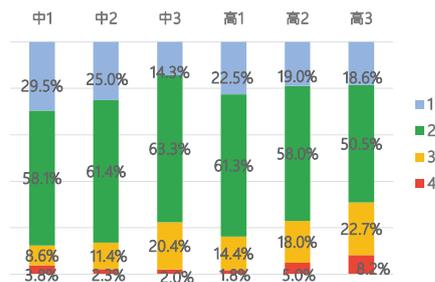
7. 学校は個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。



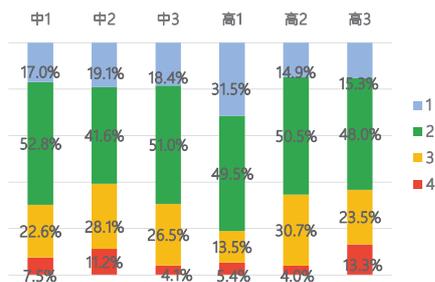
3. 本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。



8. 本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思われませんか。



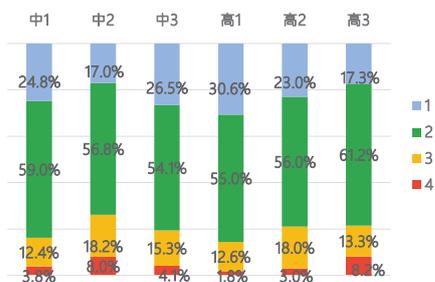
4. ウェブや学校からの連絡、学級通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。



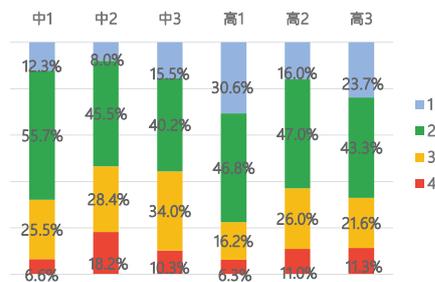
9. 本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか。



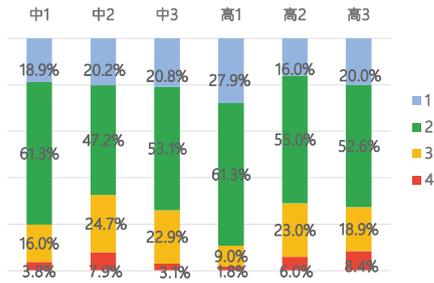
5. 避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。



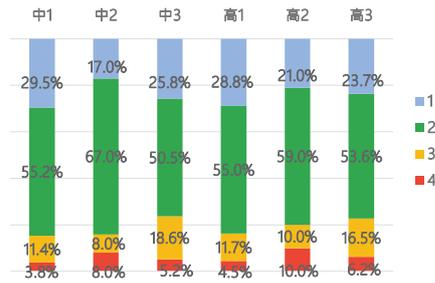
10. お子様は人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思われませんか。



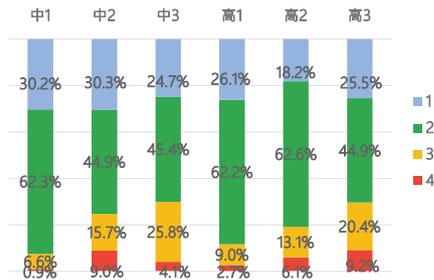
11. 生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを行っていると思われますか。



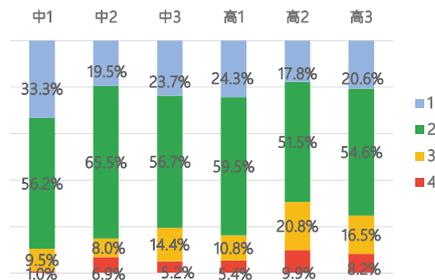
16. 学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われますか。



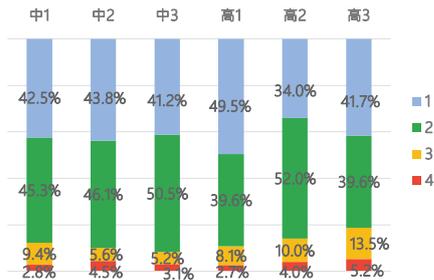
12. 学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われますか。



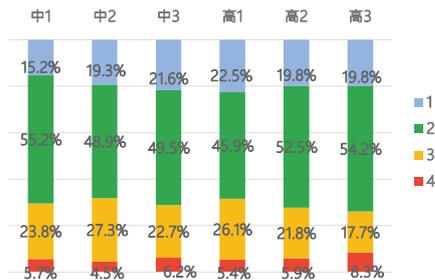
17. いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。



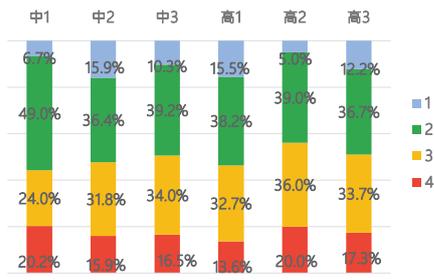
13. 学校は教室のディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいると思われますか。



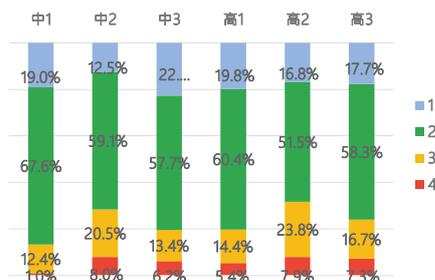
18. お子さまの日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思われますか。



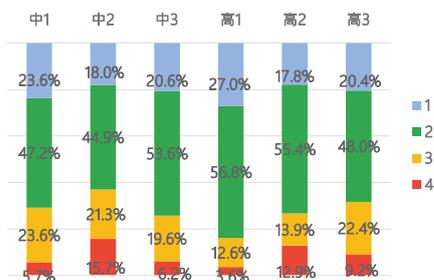
14. 習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われますか。



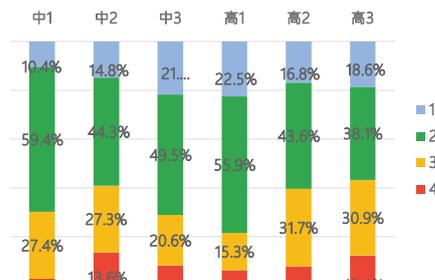
19. 本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思われますか。



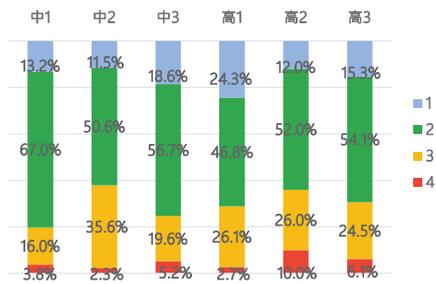
15. 学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。



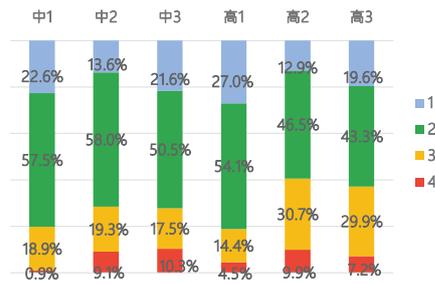
20. 本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われますか。



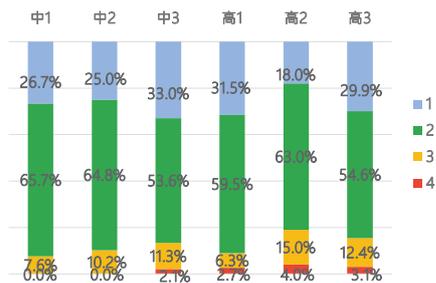
21. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。



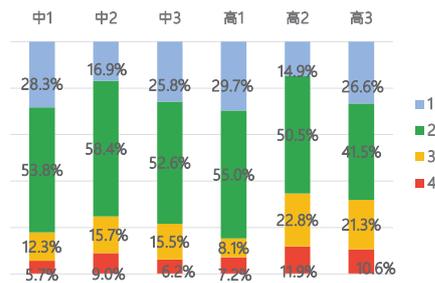
26. 子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。



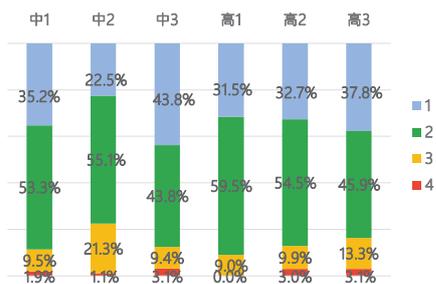
22. 各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされていると思われますか。



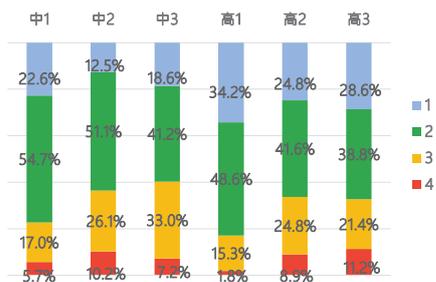
27. 本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われますか。



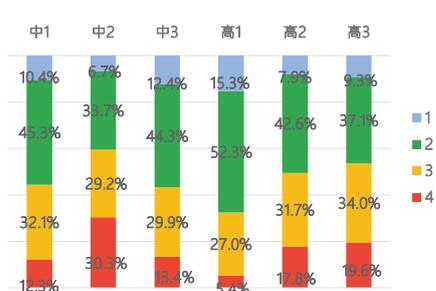
23. 異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思われますか。



24. 高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携が積極的に行われていると思いますか。



25. 初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われますか。



2019年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート集計（教員用）

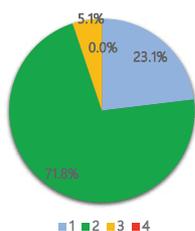
[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

No.	質問内容	[1]	[2]	[3]	[4]
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。	23.1%	71.8%	5.1%	0.0%
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	10.5%	68.4%	21.1%	0.0%
3	建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。	2.6%	44.7%	42.1%	10.5%
4	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。	5.1%	20.5%	43.6%	30.8%
5	教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	7.7%	38.5%	35.9%	17.9%
6	管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。	5.1%	56.4%	25.6%	12.8%
7	教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	30.8%	56.4%	10.3%	2.6%
8	ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を心がけている。	15.8%	73.7%	5.3%	5.3%
9	警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。	23.7%	42.1%	26.3%	7.9%
10	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。	2.6%	52.6%	34.2%	10.5%
11	生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。	23.1%	53.8%	17.9%	5.1%
12	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。	10.5%	57.9%	26.3%	5.3%
13	学力向上のための組織的な取組を行っている。	5.3%	36.8%	36.8%	21.1%
14	生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。	5.3%	50.0%	42.1%	2.6%
15	生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的にやっている。	7.9%	44.7%	42.1%	5.3%
16	模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。	18.9%	62.2%	18.9%	0.0%
17	液晶ディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。	33.3%	51.3%	15.4%	0.0%
18	学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。	18.4%	47.4%	23.7%	10.5%
19	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	27.8%	55.6%	13.9%	2.8%
20	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。	7.7%	48.7%	23.1%	20.5%
21	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。	39.5%	44.7%	15.8%	0.0%
22	授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促している。	7.9%	52.6%	34.2%	5.3%
23	他者の人権を尊重する教育が計画的に行われている。	18.4%	55.3%	15.8%	10.5%
24	生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っている。	22.2%	66.7%	8.3%	2.8%
25	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。	13.2%	52.6%	31.6%	2.6%
26	各学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされている。	28.9%	47.4%	21.1%	2.6%
27	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実している。	23.7%	55.3%	21.1%	0.0%
28	高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。	13.2%	42.1%	42.1%	2.6%
29	初等部の授業を見学したり、自らの授業を見てもらったり、初等部の教員と話し合ったりして、初中高連携を図っている。	0.0%	23.7%	42.1%	34.2%
30	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。	28.9%	57.9%	13.2%	0.0%
31	本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	15.8%	47.4%	26.3%	10.5%
32	教員間で授業を見学し合い、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取り組みをしている。	5.3%	36.8%	36.8%	21.1%

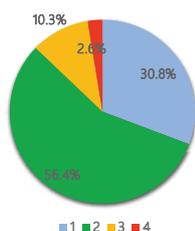
2019年度 教員アンケート集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

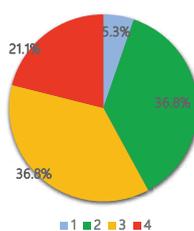
1. 本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。



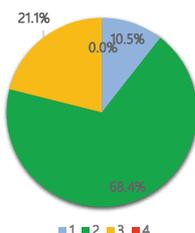
7. 教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。



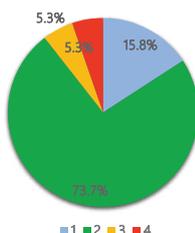
13. 学力向上のための組織的な取組を行っている。



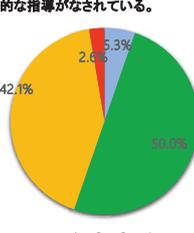
2. 本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。



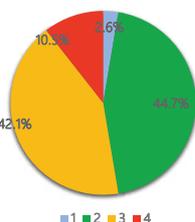
8. ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を心がけている。



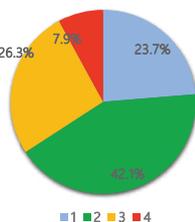
14. 生徒が人生のロードマップを描き、進路して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。



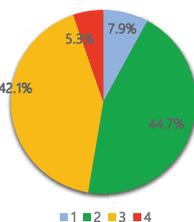
3. 建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。



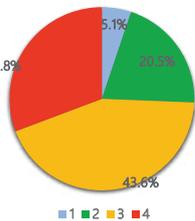
9. 警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。



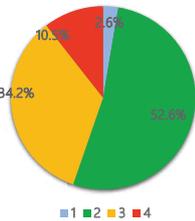
15. 生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的にしている。



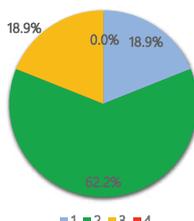
4. 職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。



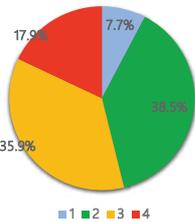
10. 事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。



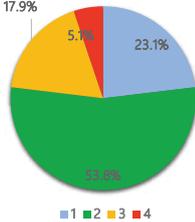
16. 模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。



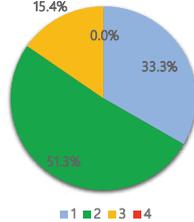
5. 教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。



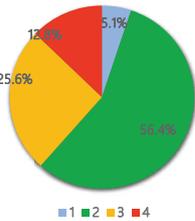
11. 生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。



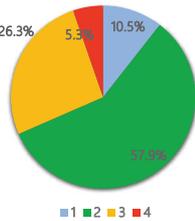
17. 液晶ディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。



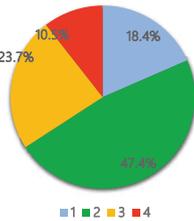
6. 管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。



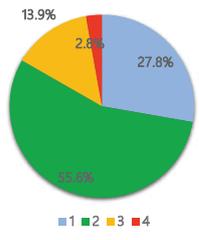
12. 本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。



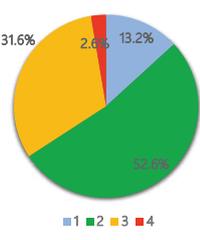
18. 学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。



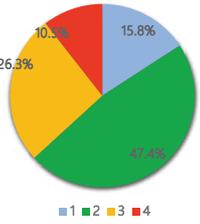
19. 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者と
の懇談や連絡を緊密に行っている。



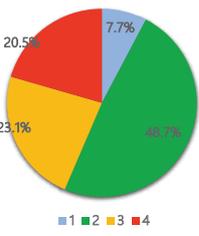
25. 基本的な生活習慣や健康的な身体づくり、基礎体力づくり
の指導を行っている。



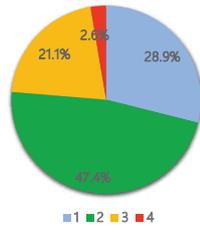
31. 本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起
する授業構成のための校内外の研修体制が充実してい
る。



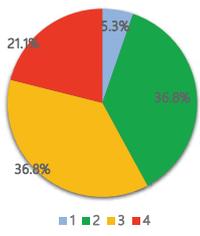
20. 生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒として
のマナーやモラルを向上させる取組を行っている。



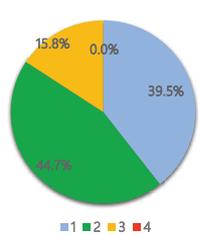
26. 各学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事
を経ることに生徒が成長していくための指導がなされて
いる。



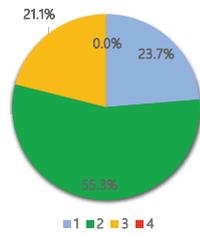
32. 教員間で授業を見学し合い、互いに切磋琢磨して
授業力を向上させる取り組みをしている。



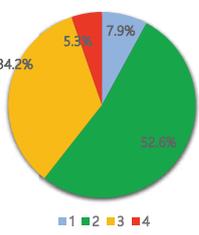
21. いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等
を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学
校組織として共有できている。



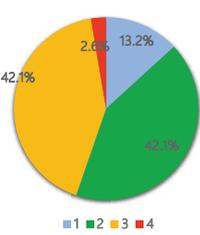
27. 異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な
言葉で発信していくための教育が充実している。



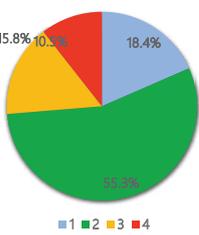
22. 授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を
知らせ、自主的な社会貢献を促している。



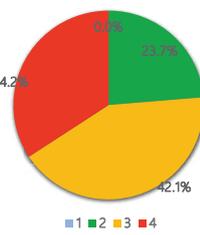
28. 高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極
的に行われている。



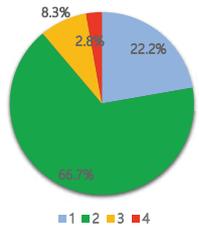
23. 他人の人権を尊重する教育が計画的に行われている。



29. 初等部の授業を見学したり、自らの授業を見てもらっ
たり、初等部の教員と話し合ったりして、初中高連携を
図っている。



24. 生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇
談や連絡を密に行い、相互理解を図っている。



30. 生徒・保護者の悩みに対して教員による相談体制や
カウンセリング体制が学校全体として整っている。

